

木は1年に1回果実をつけ、それを収穫したあとは、長い冬を越えて再び翌年実をつけます。その実を確実に収穫して、次の収穫に備える準備をし、翌年再び実を収穫するという意味で「金のなる木」と名づけました。
【3~5年で資金3倍化を目指して】

全ての情報は成果を保証するものではなく、出島式株式分析法による情報提供が目的であり、投資の最終決断は自己責任原則に基づきご自身でご判断して下さい。

■■ 今後の日本市場の動きはどうか ■■
… NYダウはいずれ本格調整(2番底押し)の可能性も …

<この2週間の動き>

9/3(木)の第17号では、大きく下げれば短期のリバウンド狙いだが戻れば利益確定売り優先としました。結局は、この2週間の間の動きは9/4の10143円を安値とし9/11の10522円を高値とする10100円~10500円のボックス相場の動きとなりました。そして、今後再びNYダウの動きに注目としましたが、9/3(木)から9/10(木)までは5日続伸となり、昨日は△108ドルの9791ドルの年初来高値となっています。しかし、このNYダウの動きを柴田野線や週足、日足のチャート分析をすると当面のピークに近づいているとみることができます。特にNYダウは柴田野線の関門観測で9700ドル~9800ドルを関門としています。ここに到達してきました。上に少し行き過ぎはあってもいったん止まるところと思われず。民主党政権の評価には時間が必要としましたように、本日の組閣までは株式市場はほとんど評価をしていません。又、為替分析では、7/13の91.714円を試す動きとなるが、ここを切っても90円台はフシになるとしましたように、一昨日90.20円まであっていったん戻しているところです。戻りのあとは今度は90円を切ってくる確率が高くなります。

年2-3回の大きな調整を待つて低位株買いを実行し、確実に利益を積み重ねていくという資産形成レポート「金のなる木」ですが大底圏での買いが1度と、7月13日(月)の1回目の買いが1度しか実現していません。世界各国の大型の景気対策と低金利政策から過剰流動性(金余り)相場となってミニバブル的な動きとなり原油先物価格の急騰(商品市況の上昇)やアメリカ株高から世界同時株高の動きとなり、出遅れていた日本株式も薄商いながら、大きなフシであった1万円を突破し、2007年7/5の18295円と2008年6/6の14601円を結ぶ下降トレンド(関門)を上をぬくことになりました。チャートの形としては中期視点(1年~2年)で見ると日経平均の12000円水準までは真空地帯なのでいずれここまでの上昇の可能性があるとしています。特に1989年の日本のバブル崩壊後からの経験則では、大型の景気対策が打ち出された時は1年~1年半ぐらいの上昇相場となっているので、今回も3/10の7021円を上昇のスタートとすれば、来年の9月ぐらいまでは続くこととなります。しかし、今回政権が変わったことで景気対策の内容が変わってきました。即効性の対策から子育て給付金のように最終消費に時間がかかる対策へとかわります。そうすると、目先は景気悪化が生じる可能性もあり株価はそれを織り込んで下落に向かうことも考えられます、そうすると次の上昇相場の時期がズレることになるかもしれません。

<国内需要としての民主党政権の影響>

市場には民主党政権の成立をきっかけに相場が再上昇するという見方もあったようですが、民主党の大勝利の翌日(8/31)の相場で、前場に 10767 円まで上昇したのをピークに下落となり、その後は 1 万円～10500 円のボックス相場の動きとなっています。このボックス相場を下に放れるのか、上に放れるのかということになりますが、ここにきて民主党政権の今後の政策に対する不透明感があるため、動くに動けない状況となってきています。麻生首相のもとで打ち出された 15.4 兆円の景気対策が鳩山首相のもとで見直されており、景気対策のうち公共投資予算を削って子育て支援などに回し、さらに今年の景気対策予算を削って来年の子育て支援の予算を確保するという方向にあります。確かに、子育て支援策は国民のふところに直接現金が残るため個人消費を刺激して景気対策に結びつくことにはなりますが、公共投資などと違って即効性がなく、世界経済が再び悪化した時、日本経済はすぐに悪化の方向に反応していくこととなります。民主党が最初に主張していたように、天下り先への基金などを見直して行政のムダを省くだけならよいのですが、公共事業を含めた景気対策を削るとなると直接に景気対策を通じて真水のお金を流し、GDP を押し上げるというシナリオが崩れることになり、過去の経験則の 1 年～1 年半の上昇というシナリオも変化を受ける可能性があります。

<NYダウのチャートを分析すると要注意>

昨日(9/16)のアメリカ株式は、各種の経済指標の改善を受けて、NYダウで△108 ドルの 9791 ドル、ナスダックで△30 P の 2133 P の年初来高値更新となりました。しかし、NYダウのチャート分析すると、すでに週足で 2 度の売り線がでており、あと 1～2 週の陽線がでると完全に売りの形となります。(ナスダックの場合は、あと 1 週の陽線で売りの形)。又、日足でも昨日の陽線で売りの形となりつつあり、もう少し上に伸びるか横もみとなるかすると調整に入る可能性があります。柴田野線では、7/8 の 8057 ドルからの上昇の仕方が 3 段の縮小型(もしくは第 2 段と第 3 段が同幅の型)で当面のピークとし、すでにそのピークに近い株価となっています。さらに、柴田野法則の関門観測法から、2007 年 10/11 の 14198 ドルと 2008 年 5/19 の 13136 ドルを結ぶ下降ライン(関門)が 9700 ドル～9800 ドル台にあり、ここに到達してきました。

現時点では、調整になったとして 7/8 の 8057 ドルから当面のピークまでの上昇幅の 1/2 押し水準以下が買いポイントとなりますが、何かの悪材料がでて 7/8 の 8057 ドルを割ることになりますと上昇トレンドが崩れて 3/9 の 6440 ドルに対する 2 番底を探る展開となります。NYダウは 3/9 の 6440 ドルから一本調子で上昇してきており好材料(低金利や大型景気対策)を織り込んでしまえば過去のチャートの形からいっても 2 番底を探る動きとなるのがふつうです。その場合、3/9 の 6440 ドルの上で止まるのか、ダブル底のようになるのか、それとも最安値を切ってくるのかは今の時点ではわかりません。少なくとも 2 番底をさぐる可能性は高いので、リスクを少なくする人や買いを待つ人はキャッシュ化して待つというスタンスになります。その途中の売買はすべて短期勝負となりますので、それに対応できる人が売買するというようになります。

<外部要因としての為替の動向とドル安の背景>

民主党政権になったとしても、日本市場の動きは結局はアメリカ株式(特にNYダウ)の動きに左右されることとなります。アメリカ経済はダメでも中国、インドのアジア市場があるといっても、そのアジア市場も現時点ではやはりアメリカ経済に左右されることとなります。それは、アメリカが基軸通貨であるドルを持っている国だからです。今回のサブプライムローン問題からの 100 年に 1 度の経済危機も当面はドルを印刷し続けることによって一時的に経済が立ち直っているかのようにみえますが、ドルの

価値は落ち他国通貨に対して全面安となっています。ドル/円相場はすでにお知らせしていますが今年の3/5の99.662円、4/6の101.43円、5/4の99.764円で三尊天井を形成し、ドル安(円高)トレンドを形成しています。この背景を上げてみますと次のものがあります。

①アメリカの債務返済能力やインフレ加速によるドルの価値の減少

対テロ戦争とイラク戦争に絡む経費、サブプライム問題からの金融危機に対応するための膨大な支出、さらに景気後退で企業収益が悪化し、税収が落ち込んだことで財政悪化に拍車がかかったことがあり、対GDP比債務残高は69%と55年ぶりの水準に達しています。(1970年代～1983年までは30%台)そのため、中国、ロシア、インドなどはアメリカ国債の保有高を減らしているようです。

②医療保険改革が実施されれば膨大なコスト発生

現在、オバマ政権による医療保険改革が激しい議論となっていますが、これが実施されれば10億ドル単位のコストが発生し、二桁に達する失業率の上昇による社会保障会計の赤字増大は不可避となります。そうすると、アメリカの債務返済能力とドルの信頼に対する懸念がますます高まり、ドル売りへとつながっていきます。

③商業不動産の貸付けが回収不能となり、再び金融機関に圧力がかかる可能性があります。

④現在の金の上昇は、ドルの切り下げの懸念から金への逃避となっている可能性がある。

本来、金の上昇は世界経済が暴落した時に安全資産として買われるのがふつうでした。しかし、この1ヶ月をみるとアメリカ株式を始め、ヨーロッパの株式は上昇しているにもかかわらず、金も買われてきました。先週末はNY金先物は1012ドルまで上昇し、ドルは全面安となっています。つまり、現在の金価格の上昇は、世界の基軸通貨ドルへの不信から最終的な世界貨幣である金への逃避ということになります。

以上のドル安要因をみると、アメリカ経済の構造的な要因からきているものであり、たとえ大きな戻りがあっても中長期的にはドル安は続いていく可能性が高いといえます。そうすると、日本経済にとってはドル安の結果としての円高となり輸出企業に支えられている状況では、日本経済は当面厳しい状況が続くこととなります。ほとんどの輸出企業は1ドル=95円に為替レートを設定しており、現在の円高が続くと下方修正となってきます。例えばトヨタ(1ドル=90円に為替レートを修正)で1円の円高で300億円の減益になるといわれています。つまり、日経平均の今後の上昇は為替からみると、どこでドルの戻り(円安)がでてくるのかということになります。

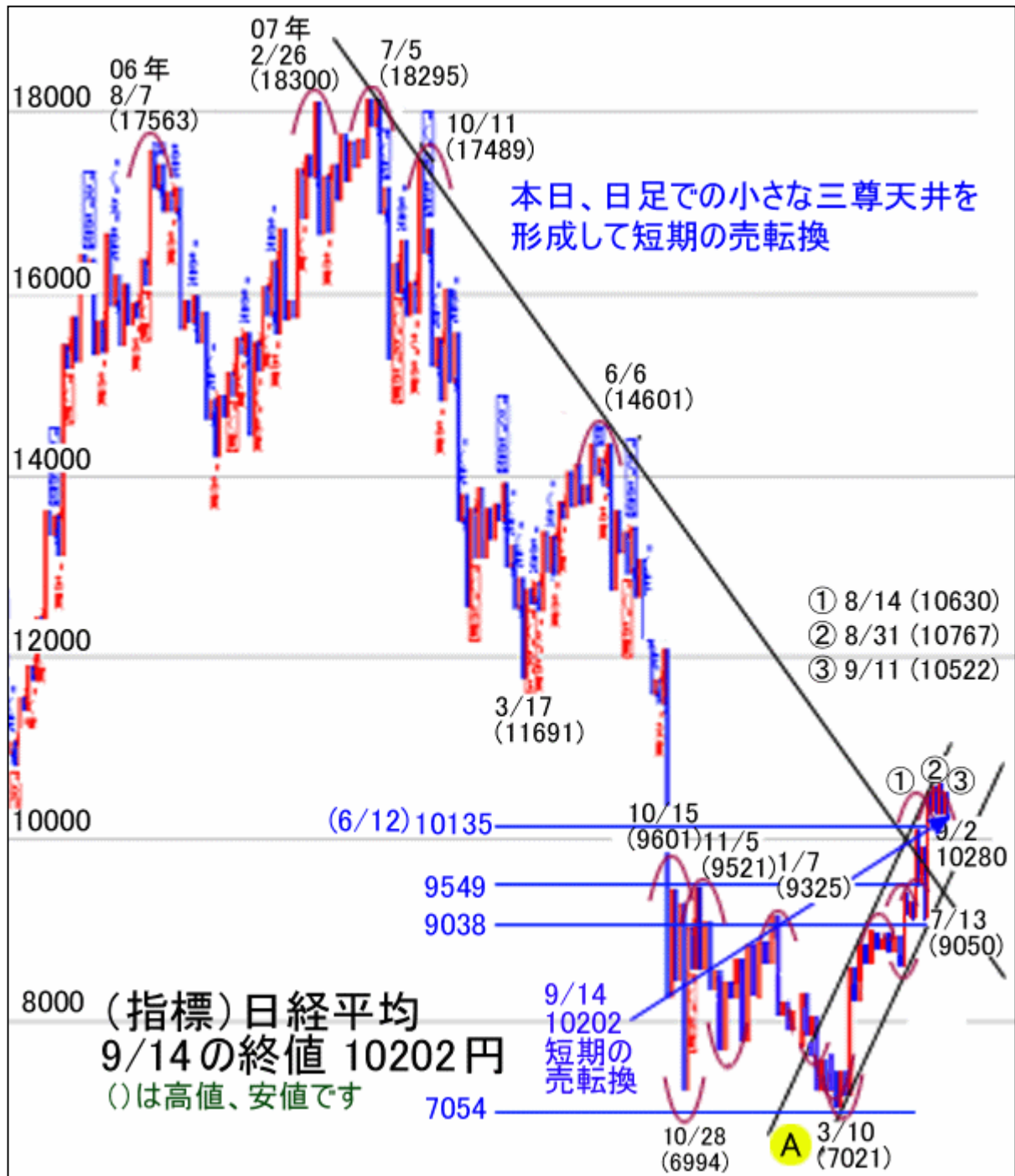
<事例研究。株式投資はカラ売りも資産を増やすための技術>

株式投資に限らず相場は買いと売りで成り立っています。チャートの動きも上昇相場、下降相場、保ち合い相場の3つがありますので、買いで勝てるのは上昇相場のスタートの時に買うことだといえます。このレポートの年数回の投資法というのはこれにあたります。年中売買している人が勝てないのは上昇相場で儲けた金を下降相場では吐き出すことになるからです。ということは年間通じて勝とうとする人は、上昇相場で買い、下降相場でカラ売り、保ち合い相場で休むということになります。短期売買を好む方は、カラ売りも研究しないと年間コンスタントに利益を上げることは難しいといえます。私は、8/17(月)にトヨタ(翌日はホンダも)をカラ売りできる人は、損切り前提にカラ売り推奨をしました。この背景には為替が円高トレンドとなっていることもありましたが、その後円高の進行とともに輸出関連株が売られ、トヨタも買い戻しとした3700円台まで下落してきました。その8/17(月)の時の出島投資ワールドで提供した分析をご覧ください。

当面は、10100円～10500円のみあいが続いており、どちらかに放れた方に動くこととなりますが、10100円を切ってくると下入れとなり、それなりの大きな下げ(9800円→9500円)が想定されます。為替の円高方向やNYダウの高値圏での動きを考えると下入れの確率が高いといえます。現時点では確率は低いと思われませんが、上入れ(10590円以上で引ける)となれば、11000円を目指すこととなります。(為替が円安方向となったり、NYダウが1万ドルを回復して、さらに上値を試す場合)。今、狙う銘柄は民主党政権の政策に関連する環境関連、新エネルギー関連、子育て関連などの銘柄の押し目買いとなります。例えば明電舎、三井造船、学習研究社などがありますが、日経平均が下入れした場合の買いの目安がわかりにくいので、下入れした場合は個別銘柄の買いポイントは臨時レポートを発送することになり

ます。

日経平均



本日は▲242 円の 10202 円で売転換が出現しました。この売転換は 3/10 の 7021 円（ザラ場安値）からの上昇トレンド（A）の中での小さな三尊天井を形成しての売転換出現ですので、それなりの幅の調整はありますが、本格的にトレンドを崩すような調整ではありません。週足の終値ベースでみると、3/10 の 7054 円から 6/12 の 10135 円までが第 1 段目の上昇、そこから 7/13 の 9050 円まで下落して、ここから 8/26 の 10639 円までが第 2 段目の上昇であり、ここをピークに売転換出現となったことで、この 2 段目の上昇幅（1589 円）の 1/2 押し（9844 円）以下が出ると 3 段目の上昇となって、このピークで 3/10 の 7021 円からの上昇が終わることになり、そこからは本格的な調整も考えられることとなります。それはまだ先の話しで、とりあえず今回は大き

く下げれば短期リバウンド狙いの買いチャンスとなります。チャートからみると 9700~9800 円水準は 1 回目の買い場と言えます。

9/14 の出島投資ワールドより

ドル/円



先週の予測としては、目先はNYダウが戻りを試す形のため、ドルの買い戻しがあるかもしれないが 94 円台がフシで次に下げてくる時は 9/3 の 91.956 円を切ると 90 円を試す動きになるとしました。

NYダウは想定通り戻りを試す形としたように 9/10(木)まで 5 日続伸となりました。ところが、ドルは長期金利の下落から他の通貨に対して全面安となり、9/7(月)の 93.286 円を高値に 9/10(木)は 91.730 円の終値となりました。そして、9/3 の 91.856 円を終値で切ったことで翌日(9/11)は 90.20 円まであって週の終値は 90.617 円となりました。目先はこの水準で円高一服となって今週はドルの買い戻しはいる可能性高く、その戻りのあとに 90 円を割ってくることを想定

しています。

9/14 の出島投資ワールドより

トヨタ



8/3(月)の分析で、柴田法則での上値の関門に接近したことで下落待ちとしましたが、NYダウが堅調で日経平均もわずかずつながら高値を更新する動きとなり為替も円安方向となっていたことで上値の関門とした4250円を試す動きとなって8/10(月)には4190円まで上昇しました。ここからは高値圏のもみあいとなって関門は突破できず、このもみあいの中で日足での小さな三尊天井①8/4の4170円②8/10の4190円③8/14の4170円を形成して本日は▲110円の4010円となって売転換出現となりました。リスクをとってカラ売りできる人は、8/10の4190円を終値でぬければ損切り前提の対応となります。(目先3700円台買い戻し)ここでは、むしろ為替と日経平均の動きを予測するものとしてみているのがよいでしょう。ここで売転換が出現するのは日経平均がさらに下げて値幅調整(25日線や75日線まで)となることを暗示しているのか為替の円高がさらに進む暗示なのかということです。逆に為替が円安となって反発し8/10の4190円を終値でこえてくると三尊天

井の崩れ型という暴騰の形となりますので、その場合は日経平均は 11000 円を目指す動きとなるでしょう。

8/17 の出島投資ワールドより

柴田野線「諺」一〇八話集

野線継承者 柴田 豊秋(柴田秋豊氏の長男)

～ 柴田野線「諺」108 話集への思い ～

思い起こせば十九才より父に弟子入りし野線に携わってから私も七十七喜寿を迎える年齢となり人生も残り少なく頭の回転が衰えない記憶がある内にといい老骨に鞭打ち打ち最後のご奉公と筆を取りました。古来文人が掛軸にかかっている達筆でもなく誰でも読める自筆で執筆いたしました。

親子二代、八十数年を過ぎ父秋豊研究奥儀の数々を基礎に研究改良をし史料を発表しなければ親子二代後世に悔いを残す、あらゆる奥儀を発表する時期だと思ひ立ち著述に至りました。

私達軍国主義時代に育った年齢は悲しいかな子供、孫達も簡単に打てるパソコン、英語が大の苦手、原稿も自筆で文章も次々と浮かぶ苦勞の連続であり今日迄書き留めた連載、父秋豊から教えを受けた事、私が長い相場界で気づき疑問に思った事を「諺」として著述にからめ今後野線投資に携わる人達の迷った時の一助になれば幸いと思っています。

古来の文人が掛軸にかかっているのは達筆で我々凡人には仲々読むことが出来ません、父からは文字は下手でも良い誰でも読める字を書く事と云われていたが、素人の事、文法上の誤り文面で重複することもありますが一話一話に意味が違いますので支障はありません。確かに父が研究し編み出した野線観測、棒足順張り、逆張り、鉤足を発表して北海道から日本橋に移り住み野線の復興に取り組んだが北海道の野線屋一と揶揄され軽視されました。今日では野線は「チャート」と呼ばれているが私は野線と云う単語に愛着があり今後も野線という文章一本で表現したいと思っております。

当時を振り返ると悔しく、辛い時期もあつたが父の供をして一世を風靡した「赤いダイヤ」のモデルといわれた佐藤和三郎氏、売の山種と語り草となった山崎種次郎氏、立花証券の創設者独眼流のペンネームで執筆石井久氏、数々の相場師に会いお話をさせて戴いた事は相場観測の違いこそあれ、当時若かった私の人生の宝と思っております。普通なら後身に譲り隠居する歳ですが、父を初め諸先輩に追い付き追い越せの気持ちで筆を持ち書きつづけ死が来る迄、研究、野線追及してゆきたい。

何如に奥儀を会得理解していても資金面様々の事情から大勢、中勢、目先、日計り売買に自ずと比の場面で果たして途転か利喰いか若しくは手仕舞いかの決断に迷いが生じたときの一助となればとの思いから野線観測から見た一〇八話を今日迄の成功、失敗から感じた体験を「諺」として纏め投資の一助となればとの思いです。古来「諺」は古典古人の先駆者、先祖、先人から言い伝えられた人類の智恵の結晶だと思っている。日常何気なく使われている諺は誠に意味深い。

あらゆる科学が発達した現在と違い、天候の雨、雪の量、寒さ暑さから作物の種蒔き収穫時、日常の生活に密着し、「諺」として残り実際に何気なく伝えられ使われている。

私も含め何如に奥儀を吸収、理解していても必ずや出勤に欲が付きまとい迷いが生じる事もある。比の「諺」は投資の心得として読んで戴きたい。柴田野線「諺」一〇八話集は相場投資、人生の奥儀とも思ひ信じている。投機、投資家は元より、相場に関係ない経営者、個人の皆様にも一読して戴き、人生の一翼となれば幸と思っています。

豊秋

※このページは初めての方のために毎回記載します
柴田秋豊氏に興味がある方は自伝を漫画化したものがあります。ズバ株 HP のトップページにございます

<http://www.zubakabu80.com/>

第二十二話 罫線観測は世界投資家の調査報告書

日本の大学の数を調べた処、九九一校、内経済学部が三五八校、教授が一校数十人とみても二千人以上となる。経済学者、評論家、アナリスト等々の諸先生方がテレビで今後の経済、景気を討論、解説、意見交換をしているが十人十色、決して「1+1」は2と纏まる事は無い。諸先生はご自分の研究結果を論じ主張しているのであって誰の意見が違うとは言い切れない。罫線学とは諸先生、世界の投資家の売買の人気を纏め、背後に隠された諸々の材料、情報、策略を見破るのが罫線観測の奥儀、法則なのです。

第二十三話 損でも手数料が入る甘言に乗るな

ネット売買の普及で手数料も安く手軽に売買が出来る結果一日中ネットに張り付き五～六回も売買していると聞く。しかし手数料を合計すると結構高い手数料を支払っているのではないか。一時的に儲かることもあるが、危惧しているのは一度目先張りに手を染めると中々大勢張り、大相場には戻れないのが通例である。

第二十四話 罫線観測は人間心理の裏を見る

人の感情には信義に反し、背信、裏切り、誠に醜いものが含まれている。人間の欲、妬みを如実に「型」として素直に表しているのが罫線観測の原点だと思っている。「昨日の友は今の敵」心を許した事を逆手にとられて痛い目に会う事があり、これが相場界である。罫線は嘘をつかない、投資家の裏を表理するのが罫線、人道的には卑怯であるがこれが罫線観測。